１．　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4090800279		
法人名	社会福祉法人怡土福祉会		
事業所名	グループホーム照葉		
所在地	福岡県福岡市東区香椎照葉３丁目４－３ （電　話）　092-663-8500		
自己評価作成日	平成　25　年　12　月　27　日	評価結果確定日	平成　26　年　3　月　4　日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・入居者と職員が共に「あなたに会えてよかった」と思うことが出来るホームを目指しています。
・地域に開かれた信頼されるホームを目指しています。
・意思や好みを尊重し、生き甲斐や楽しみのある生活を送って頂けるように支援を行ってます。
・職員が向上心を持ち、専門技術をを身に付けられるように努力しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町３－１－７
訪問調査日	平成　26　年　1　月　21　日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

平成６年から整備が開始された人工島「アイランドシティ」の中に事業所はあり、同一法人が運営する特別養護老人ホーム・地域密着型特別養護老人ホームが併設されている。周囲は道路を挟んで向側にあるアイランドタワーをはじめ、マンションが建ち並んでおり、マンションの入居者も他の地域からの移住者ばかりであり、これからコミュニティが形成される地区である。そのような環境の中で、事業所はボランティアグループとの交流を通じて、地域を形成していこうと努力している。事業所は利用者の尊厳を尊重した支援に力を入れており、利用者の生活リズムを把握し、排泄に関してはオムツが外れた利用者も多数いる。また、利用者や家族、職員の良好な関係作りを大事にしており、事業所内は家庭的な雰囲気が感じられる。

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ　理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念は、各ユニット及び、スタッフルームに掲示しており、皆が見れるようにしている。毎朝申し送り時に唱和し、理念に則した援助を心掛けている。スタッフ間だけでなく、入居者様、ご家族にも判る場所に掲示し、共有に努め、意欲的に取り組んでいる。	施設全体の介護理念を玄関やスタッフルームに掲示するとともに、毎日の朝礼や月１回程度開催されるスタッフ会議で復唱し、職員間で共有している。介護理念の下に介護目標と介護方針があり、介護方針には「地域に開かれた信頼される施設を目指す」という地域視点の内容が書かれている。	施設全体（広域特養、地域密着特養、グループホーム）の理念はあるが、事業所としての理念は無い。地域密着型事業所としての役割や意義を踏まえた事業所独自の理念の作成を望む。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設内ホールにて地域の方を招き講演を行う等、認知症の人を支える啓発活動に積極的に取り組んでいる。家族への理念の説明は契約時に行い、理解と共有に努めている。地域の小学校やボランティアが来設し、楽器や踊り、イベント支援をしてくれる事も増えている。また、公園の散歩や買い物でも、挨拶を中心として積極的に近所付き合いをしている。	町内会というものはないが、アイランドシティ全体のボランティアグループとの交流は頻繁に行われている。グループは毎月実施されるオカリナ演奏等で事業所を訪問している。また、事業所主催の秋祭りや敬老会にグループを招待し、交流を図っている。近所の小学校や保育園との交流もあり、地域に根差した事業所作りに努めている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケアの拠点として、民生委員を通して、施設内の見学、また、施設内にて職員が講演を行う等、認知症の人を支える啓発活動に積極的に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様やご家族様にも参加して頂き、事業所の取り組み・サービスの状況などを報告、研修や勉強会で学んだことの発表を行う。また、会議の中で出た意見やアドバイスをサービスの向上に活かしている。事業所理念、地域交流においても、実施状況を確認し、理解と共有に努めている。	会議は２ヶ月に１回開催され、利用者や家族、ボランティアグループの会長が参加している。行政には参加を依頼しているが、毎回参加ではない。会議の中では事業所内の活動や利用者の生活状況について報告を行っている。参加家族からは利用者の健康に関することや外出機会等、日々の楽しみついての要望が出され、事業所はすぐに対応している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護サービス担当者や地域包括支援センター職員を運営推進会議に招いて連携を図り、協力関係を築けるように努力している。	施設全体として、保険者や地域包括支援センターとの連携を取る機会はあるが、事業所独自で、運営推進会議以外に連携を取る機会がない。	保険者が事業所の実情を把握し、事業所が尚一層、サービスの資質向上を図るためにも、事業所として日頃から保険者、地域包括支援センターとの連携を図ることを望む。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初よりスピーチロック・身体拘束のないケアに取り組んでいる。社内研修・外部研修などから知識を深める他、職員全員がアンケートを行い振り返り、気付きや介助方法の話し合いの場を設けるなどし、自身のケアの見直しと改善に努めている。現在は玄関を施錠せずに安全で自由な暮らしが支援できるように取り組んでいる。	玄関や中庭に出る窓に鍵はかかっていない。外出傾向が強い利用者に対しては、職員が付き添ったり、利用者の気分転換を図る支援を行っている。身体拘束に関するマニュアルも整備され、施設内研修や外部研修に参加し、職員の身体拘束廃止に対する意識向上に努めている。	

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修会へ参加し、知識を深める他、法人内では不適切ケアについての研修を定期的に実施し虐待のない介護に努めている。新聞など報道があれば、必ず眼を通し意見交換の場を設けている。また、日頃より職員間で注意し合い、虐待を見逃さない環境にするように心がけ防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会へ参加し、研修の記録、報告によって職員間の共有を図っている。また、それらの資料を職員がいつでも閲覧できるようにしており、必要時に活用できるよう制度の理解に努めている。	権利擁護に関する制度について、契約時や必要に応じて家族に説明をしている。全職員が施設内研修で制度について学ぶ機会がある。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書の該当箇所を確認しながら説明し、同意を得た上で手続きを進め、契約を結んで頂くよう配慮している。自立支援に関する事項とそれに伴うリスクに関しても十分な説明を行いつつ、ご本人とご家族の疑問や不安も聞き入れ、納得していただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置、家族を招く行事等の機会を設け意見を収集し、家族からの意見や要望などを運営に反映させる他、指摘事項には即時に対応し改善するよう努めている。また日常の報告については、職員発行のお便りへの掲載、運営推進会議や面会時、ＴＥＬにより随時行っている。また、意見や要望を職員に伝えやすいよう、日頃よりコミュニケーション作りに努めている。	運営推進会議以外でも、日々の関わりの中で利用者の思いを汲み取ったり、家族来所時には積極的に話を聞くようにしている。音楽好きな利用者の「コンサートに行きたい」との要望に対し、すぐに実行したり、年始に利用者から初詣の要望があり、当日の予定を変更し、久山町の猪野神社へ参拝に行く等、利用者の意向を尊重した、臨機応変の対応をしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議を行い、議題以外にも各職員に意見を求めている。それぞれが役割を持ち、特養との合同委員会に出席し、意見交換を行っている。勤務中でも疑問点や改善点についてはその都度話し合い、常に職員の意見や提案を運営に反映させるようにしている。その為、気安く意見が交換できる雰囲気作りにも努めている。	管理者は、運営に全職員の意見を反映できるように、会議等は事前に各職員から意見を聴取している。今回の自己評価も職員の意見を聴取し作成している。また、職員間のコミュニケーションを大切しており、必要に応じて個別に意見を聞いたり、業務外で懇親を深める取り組みを実施している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員における本人評価を実施し、個別の要望把握に努める他、資格手当てを設けるなどし、各自が向上心を持って働けるようにしている。また、業務時間内に事業所を訪問し、職員や利用者との交流を図っている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮してい生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集・採用にあたっては、定年年齢を上限とする以外の年齢制限・性別基準を設けず決定している。経験・能力を考慮し、個性を尊重して、助け合いながら業務を行っている。	職員の採用は施設の施設長が行っている。募集や採用にあたっては年齢や性別を理由に対象から外したりしていない。定年は６０歳だが、希望があれば継続雇用も行っている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人内外の研修に参加し、学ぶ機会を作り、日常的に理念の理解意見交換の場を作り、取り組みを行っている。	施設内研修が実施されており、職員が人権について学ぶ機会がある。職員は研修で学んだことを意識し、利用者の人権を尊重した支援の実践を心がけている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部の勉強会への参加、外部研修への参加を斡旋すると共に、個々の要望を聞きながら職員の育成に努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年開催される秋祭り、文化祭、忘年会などで関連施設との交流、意見交換が行われている。隣接する関連施設とは委員会活動や勉強会も、一緒に行い連携をはかっている。		
【Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時に限らず、入居者様に対して受容と共感、傾聴、対話を心掛け、言葉だけでなく表情や行動等からも訴えを受け取り、安心して頂けるよう努めている。また、日頃より職員に相談事を出来るように、コミュニケーションをとり信頼関係の構築に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をよく聞かせて頂き、ご本人やご家族の気持ちに共感した上で、困っている事や要望を明確にし、不安を解消できるようなサービスを提供することで、安心していただけるよい関係づくりに努めている。また、ご本人とご家族の要望が異なる時も多々あるので、個々に時には一緒に耳を傾けている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員、施設のケアマネとも連携をとり、相談受付の際ご本人に必要な支援、ご家族が求めている支援を考慮に入れ他のサービスも含めた対応に努めている。また、そのニーズがグループホームに合っているかを見極め、その方の状況に合っている支援を検討している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの能力を見極めその方に応じた作業を一緒に行なう。食事作りを手伝っていただく方、味見をして頂く方など、生活歴や様子、言動、好みなどから、本人の役割を模索しケアに取り入れている。支え合える関係づくりと人生の先輩であることを考慮し共に生活をしている関係作りを築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけでご本人を支えるのではなく、ご家族にも出来るだけ協力して頂き、共にご本人を支える関係構築に努めている。面会時は必ず近況報告を行い、昔のご本人の情報を聞き、ご家族の思いも反映できるように努めている。ご本人、ご家族と共に対話を行い、家族間の関係が職員を含めて密になるように努める。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の了承の上、ご本人が馴染みの方と会える機会を設ける為、家族へ来設を呼びかけたり、ドライブや買い物にて馴染みの場所を訪れる機会を設けている。また、誰でも、会いに来られるような、開放的な環境作りを行っている。	利用前に、利用者や家族から馴染みの人や場所、生活状況を聴取し、できるだけ関係を継続するような支援を行っている。馴染みの人と携帯電話で連絡を取り合う利用者もいる。年末には利用者と一緒に年賀状を作り、馴染みの人へ送る支援を行った。地域とはボランティアグループとの交流を通じて関係構築に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や、相性を理解しながら席を配慮したり、利用者同士が関わり支え合える関係が持てるように支援している。また、交流や関係作りが築けるように職員が状況により援助している。トイレの場所を教えあい、就寝時の照明の調整など入居者同士で助け合っている時は見守りにて対応している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむなく利用を終了する入居者ご家族より、近況を知らせて頂けたり、職員が入院先へ見舞いに行くなど、これまでの関係性を大切にし、相談・支援を受けやすい環境が保てるよう努めている。今回、ご家族の都合で隣接する施設に移る入居者に対しても関係者に対して情報を詳しく伝え、その方の精神的ダメージが最小限になるよう面会を行っている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃のコミュニケーションにて、ご本人から意向や情報を収集確認し、日々の変化を観察しながらニーズの把握に努めている。意思疎通が困難な方にも、ご家族からの情報や生活暦、日頃の行動や表情にて予測し取り組んでいる。出来る限りご本人本位の暮らしが出来るように検討している。	生活場面のふとしたところで出る言動に注意し、日中の睡眠時間との関係も含め、個々人の日々の生活状態を観察し、その状況に応じ対応している。自らの思いを伝えられない利用者に対しては、家族から情報を得たり、時にはタイムスリップし話を合わせ、意向の把握に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時には、可能な限りご本人から聞き取りを行い、家族からの情報収集を行なっている。開始後に知り得た情報も職員間で共有し活用している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心地よく生活していただく為、それぞれ一人一人のリズムを職員全員で理解し、言動や表情からもその方の現状把握に努めている。十分な情報収集のうえで計画に反映させ、日々の暮らしの中から、その方の有する力を遠慮なく発揮出来るように支援している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的にコミュニケーションをとる事で、ご本人やご家族から聴き取り得た意向や情報と、専門職からの意見やアイディアを反映させ、介護計画の作成を行なっている。モニタリングも月一回行い、三ヶ月に一度評価会議を行っている。また、変化があった時は、その情報を元に話し合い、その方がより良い暮らしが出来る介護計画の作成を行っている。	担当職員が中心となり、本人の状態や意向を把握している。他の職員や医師、看護師の意見を取り入れ介護計画を立てている。通常は３ヶ月に１度見直すが、毎月のモニタリングで必要があれば随時見直している。全職員がプラン内容を把握し、統一したケアが実践できている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・業務日誌には日々の様子だけでなく職員の気付きや感じた変化なども記録しており、日常的にケアの工夫などを話し合っている。情報を全員で共有し、必要があればご家族にも相談している。モニタリングや評価で検討した項目も新しい計画に盛り込んでいる。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門医への通院、入院の支援、買い物などその時々で生じるニーズにチームケアで対応している。本人の希望に応じ、併設されている施設との協同イベントやクラブ活動などに自由に参加して頂き交流を深めている。また、その時々に生じるニーズに合わせ、職員を増員できるよう柔軟な対応を行なっている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物や近隣の小学生の訪問、地域ボランティアで来所してもらっている。オカリナの演奏、踊りのほか、介護のボランティアの受け入れを随時行い、地域との交流を深め、安全で豊かな暮らしができるよう支援している。また、散歩にて近所の公園内を散策し、挨拶を交わす事で近隣の方との接点を持って頂いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を重視し、家族の協力を得ながら適切な医療が受けられるように支援している。入居以前からのかかりつけ医がいる方はそれを継続して頂く。本人が体調不良の際には家族へ連絡し、本人の要望をもとに、家族の意向・医師の指示を確認し対応している。	利用者や家族から要望がある場合を除き、原則かかりつけ医は変更しない。本人の状態は家族と情報を共有している。受診前後を含め、家族と蜜に電話で連絡を取っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職による観察等で健康管理を行い、日々の心身の状態や情報、気付きを、ご家族の医療に対する疑問を伝え看護士に相談し指示を受けながら、利用者が適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が安心して治療が受けられるよう、日頃から主治医と連絡を取り、相談し助言を頂いている。入院時には介護添書にて日々の様子を医師に伝え、電話やお見舞い時相談を行い早期退院に努め、退院時には入院中の様子を確認し安心して生活に戻れるよう支援している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時及び必要時に重度化についての指針の説明を行い、段階ごとにご家族に相談を行っている。ご本人・ご家族・主治医・ホームが常に連絡を取り合いながら、状況の変化に伴い、その都度意向を確認し支援に取組んでいる。また、看取りの例はまだないが、2ヶ月に一度勉強会に出来るだけ参加し、一つの選択肢として職員間で取り組む心構えを行っている。	重度化した場合や終末期の対応は必要不可欠だと考え、２ヶ月に１回勉強会に参加している。重度化に伴う対応についての指針があり、契約時に説明し、同意を得ている。	重度化に伴う対応について指針はあるが、事業所として対応できる内容を、より具体的に表記されることを望む。
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救命講習を受講している。急変時対応マニュアルを作成し常に眼を通し内容を理解するようにしている。定期的に社内研修を設け、一人一人が慌てずに対応できるよう実践力の会得に努めている。個々の利用者の急変時の対応の意向について主治医・家族・ホームで合意書を交わし、慌てる事のないようにしている。		

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年２回は併設施設と合同で避難訓練を行い、日中夜間それぞれ想定した訓練と利用者の安全な避難方法の確認を行っている。緊急避難マニュアルを作成し、その時、どうしたらいいのか把握できるようにしている。避難場所の確認や地域のボランティア、近隣へも協力が得られるよう呼びかけ話し合いを行っている。	各災害に応じたマニュアルを整えている。防災訓練は消防署立会いと法人の訓練を含め、年に２回実施しており、近隣者への声かけも行っている。非常用備品は併設施設に準備している。	非常用備品は備え付けられているが、事業所として災害時に必要とされる備蓄品の種類や量を検討することを望む。
【Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねるような対応にならないよう努めると共に、人生の先輩として尊重し誇りを傷つけないように言葉遣いや口調、姿勢に配慮し、その方に応じた声掛けや対応を行なっている。職員間で情報を共有しその方に応じた対応に努めている。	プライバシーに関する職員に意識は高く、リーダー会、スタッフ会議、施設全体の勉強会でその都度意識向上を図っている。本人を傷つけることがないよう、言葉かけに工夫している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で傾聴する姿勢をもち、その方の思いや希望を聞いたり自己決定が出来るように努力している。その為、会話機会を増やし、言葉に出せない方もその方の表現される仕草や目配せから把握し、自己決定できる援助を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ニーズの把握に努め個別に配慮しながら、日々の変化に合わせて支援を行っている。出来るだけ自分のペースで一日を過ごして頂くよう援助している。その為、職員は柔軟な対応が出来るように心がけている。その時の体調や精神状態に合わせ職員で協力し合い支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により、使い続けている化粧品や櫛、爪きりを居室に置き、いつでも使えるようにしている。衣類は可能な方は自身で選んで頂いている。定期的に訪問美容師に来てもらい、身だしなみが出来るよう支援している。また、本人の希望により、月に一度併設施設にて行われるエステクラブへ参加して頂くなどの機会も設けている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個別の好みやこれまでの食習慣を聞きながらメニュー作りをしたり、その人の力に応じ、出来る方には職員と一緒に準備(盛り付け、味見)や片づけを行って頂いている。また、職員が一緒に食事し、話題の提供など、楽しく食事が出来るように配慮している。	食事は利用者とともに準備し、同じテーブルで同じ物を食べている。食事中も会話が絶えず、楽しい雰囲気を作っている。併設施設の栄養士が立てた献立をベースに、その時々の利用者の要望によってはメニューを変更する。中庭の野菜を収穫し、調理することもある。	

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立表を参考にバランスを考えながら献立を作り提供している。一人ひとりの食事量を把握できるようにしている。その人の状態や能力、既往歴に合わせて食事の形態やメニューを変更している。変更した情報は共有し状況の確認が出来るようにしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、一人ひとりに声掛け、力に応じた口腔ケアの支援を行う。口腔内の清潔を保つと共に誤嚥性肺炎の予防に努めている。出来るだけ自分で磨いて頂き、磨き残しを必要に応じて介助している。義歯は就寝前に預かり、夜間浸け置き消毒している。意思疎通困難な方は歯科医師にも協力していただいている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えにはすぐに対応し、その方の心身状況にあわせた援助や誘導を行うよう努めている。出来ない事のみの援助を心掛けている。また、できるだけ排泄はトイレで行なえるよう支援し、排泄パターンに応じ声掛け誘導を行なっている。また、必要以上のオムツ、パッドの使用を控え、その方の自尊心を考慮し自立に向け支援している。	排泄チェック表を利用してパターンを把握している。眠前薬との調整も行い、終日排泄の自立に取り組んでいる。個々人のサインを見逃さず、オムツ外しができた利用者も多数ある。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に関しては、ご家族・看護師と連携しながら状況を確認し排便コントロールを行っている。便秘による不穏など心身への影響を考慮しつつ対応する。水分摂取量や食事に内容を配慮する（繊維質の多いもの、乳製品）他、腹部マッサージやフラダンス体操などにも参加して頂き、腸の運動に働きかけ、自力排便を促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	入浴予定は決めているが、本人が夕方以降に入浴を希望された場合には可能な限り対応している。温度も個人の希望を反映させ、急ぐ事無く、ご本人が満足できる事を第一に心がけている。	毎日入浴が可能で、週に３回以上は入浴していただくよう働きかけている。温度、時間、順番等、入所前の生活スタイルに合わせ検討・工夫し対応している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の変化や状況に合わせて居室や共有スペースのソファで自由に休息を取って頂く。夜間は入居者の生活リズムも考慮し、就寝前の準備を支援、居室の室温や寝具の状態や入眠状況の確認を行い、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情は個別にファイルを行い、職員全員が自由に閲覧し、薬に関する情報の理解するように努めている。内服はその方に応じて、袋ま渡す、または掌に載せる、口内に含ませるなど対応を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やご家族からの情報、日常での個別のアセスメントにおいて、趣味や得意な事を見つけ、発揮できる機会を作り、その方が活気を持てるように援助を行う。職員間で話し合いながら生活の中に役割や生きがいを感じられる支援に努めている。また、嗜好品の提供も行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良く大気汚染数値が安全レベルを示す日には、事業所の庭先や近隣へ散歩に出かけたり、買物に同行して頂いている。悪天候の日は隣接の施設に行き、そこの入居者との交流を楽しまれている。また、個別の要望に応じコンサートやドライブ等を計画し実施している。また、ご本人ご家族の要望により自宅への外出支援の働きかけを行う。	外出の頻度は高く、毎週日曜日は自由に外出できるよう車輌を確保している。利用者の声を聞き逃さず、音楽が好きな利用者をコンサートにお連れするなど、行きたい場所に連れて行くよう努め、外出支援を行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と本人の意向で少額のお金をもって来ている方がいる。施設内で日常使うことはないが、祭事や、外出の際にご家族と共にご自身でお金を払っていただく。お金を持つことで安心される方もいる。その気持ちを汲み取り可能な限り、自己管理もして頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、個人で携帯電話を持たれている方は、好きな時に掛けている。施設の電話番号は、施設内に掲示している他、郵送物・お便り等にも都度掲載しており、必要時には電話を頂けている。実際、郵便物も届きご本人に渡し、電話の取次ぎも行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンでの遮光、オーディオの活用、ドライブや外出等の工夫によりできるだけ利用者の不快感の減少に心がけ、季節感や生活感を感じて頂けるように工夫している。中庭に畑があり、一緒に農作業を行い、収穫の喜びを共感して頂いている。また、季節ごとのカレンダーを手作りしたり、日々の行事の写真なども貼り、馴染みの空間になるよう心掛けている。	共用スペースは、外出時の写真や皆で作成したポスター、カレンダーが掲示されている。観葉植物や季節の花を飾るなど、居心地良い、自宅で過ごしているような空間を心がけ、工夫がなされている。	

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	―	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファは自由に使用できるようにし、独りやなじみの方と過ごせるように配慮している。テレビやゲームなどの手作り娯楽グッズ等を置き、自由に使用し過ごして頂く。テーブル席は身体的な面だけでなく、人間関係を考慮し、より居心地よい場所になるように日々工夫している。その方の意思と心情を尊重し、自由に過ごして頂きつつ、トラブルの回避にも努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や馴染みの物を置いて頂き、これまでの生活スタイルが継続でき、居心地よく過ごせるように工夫している。また、ご家族の写真や、好みの装飾を行い、居室内で過ごす時間が穏やかで楽しく感じていただけるよう努めている。	居室には、馴染みの家具や飾りが設置されている。仏壇を持ってこられている利用者もあり、各部屋とも個々人の趣向が凝らされた部屋になっている。	
57	―	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは手書きで見やすく表記し、居室には名前を貼る、浴室には「ゆ」の暖簾を下げる等、混乱しないよう工夫している。補助具の方もおられるので、できる事を把握し安全に過ごせるよう支援している。日々の変化に伴いながら援助内容をその都度工夫している。また、必要に応じて居室内のベッドや家具の位置をその方が生活しやすいよう調整し環境整備を行っている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
Ⅴ　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	―	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25,26,27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の２／３くらいの
				③利用者の１／３くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	―	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20,40）	○	①毎日ある
				②数日に１回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	―	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
61	―	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38,39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
62	―	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
63	―	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32,33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
64	―	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんど掴んでいない

自己評価および外部評価結果

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
Ⅴ　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	―	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の２／３くらいと
				③家族の１／３くらいと
				④ほとんどできていない
66	―	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2,22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に１回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	―	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	―	職員は、活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の２／３くらいが
				③職員の１／３くらいが
				④ほとんどいない
69	―	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
70	―	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の２／３くらいが
				③家族等の１／３くらいが
				④ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ　理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念は、各ユニット及び、スタッフルームに掲示しており皆が見れるようにしている。毎朝申し送り時に唱和し、理念に則した援助を心掛けている。入居者様、ご家族にも、判る場所に掲示し、スタッフと共有できるように、意欲的に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設内ホールにて地域の方を招き講演を行う等、認知症の人を支える啓発活動に積極的に取り組んでいる。家族への理念の説明は、契約時に行い理解と共有に努めている。地域の小学校やボランティアが来設し、楽器や踊り、イベント支援をしてくれる方も増えている。また、公園の散歩や買い物でも、挨拶を中心として積極的に近所付き合いをしている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケアの拠点として、民生委員を通して、施設内の見学、また、施設内にて職員が講演を行う等、認知症の人を支える啓発活動に積極的に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様やご家族様にも参加して頂き、事業所の取り組みや、サービスの状況などを報告、研修や勉強会で学んだことの発表を行う。また、会議の中で出た意見やアドバイスをサービスの向上に活かしている。事業所理念、地域交流においても、実施状況を確認し、理解と共有に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護サービス担当者や地域包括支援センター職員を運営推進会議に招いて連携を図り、協力関係を築けるように努力している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初よりスピーチロック・身体拘束のないケアを取り組んでいる。社内研修・外部研修などから知識を深める他、職員全員がアンケートを行い振り返り、気付きや介助方法の話し合いの場を設けるなどし、自身のケアの見直しと改善に努めている。現在は玄関を施錠せずに安全で自由な暮らしが支援できるように取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

平成26年3月4日

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修会へ参加し、知識を深める他、法人内では不適切ケアについての研修を定期的に実施し虐待のない介護に努めている。新聞など報道があれば、必ず眼を通し意見交換の場を設けている。また、日頃より職員間で注意し合い、虐待を見逃さない環境にするように心がけ防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会へ参加し、研修の記録、報告によって職員間の共有を図っている。また、それらの資料を集め職員がいつでも、閲覧できるようにしている。必要時に活用できるよう制度の理解に努めている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書の該当箇所を確認しながら説明し、同意を得た上で手続きを進め契約を結んで頂くよう、配慮している。自立支援に関する事項とそれに伴うリスクに関しても十分な説明を行いつつ、ご本人とご家族の疑問や不安も聞き入れ、納得していただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置、家族を招く行事等の機会を設け意見を収集し、家族からの意見や要望などを運営に反映させる他、指摘事項には即時に対応し改善するよう努めている。また日常の報告については、職員発行のお便りや、運営推進会議などで報告したり、面会やＴＥＬ時に随時報告を行う。また、意見や要望を職員に伝えやすいよう日頃よりコミュニケーション作りに努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議を行い、議題以外にも各職員に意見を求めている。それぞれが役割を持って、特養との合同委員会に出席し意見の交換を行っている。勤務中でも疑問点や改善点についてはその都度話し合い、常に職員の意見や提案を運営に反映させるようにしている。その為、気安く意見が交換できる雰囲気作りも行っている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員における本人評価を実施し、個別の要望把握に努める他、資格手当てを設けるなどし、各自が向上心を持って働けるようにしている。また、業務時間内に事業所を訪問し、職員や利用者との交流を図っている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮してい生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集・採用にあたって定年年齢を上限とする以外の年齢制限・性別基準を設けず決定している。経験・能力を考慮し、個性を尊重して、助け合いながら業務を行っている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人内外の研修に参加し学ぶ機会を作り、日常的に理念の理解意見交換の場を作り取り組みを行っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部の勉強会への参加、外部研修に参加を個々の要望を聞きながら努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年開催される秋祭り、文化祭、忘年会などで関連施設との交流、意見交換が行われている。隣接する関連施設とは委員会活動や勉強会も、一緒に行い連携をはかっている。		
【Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始に限らず、入居者様に対して受容と傾聴、対話を心掛け、言葉だけでなく表情や行動等からも訴えを受け取り、安心して頂けるよう努めている。また、日頃より職員に相談事を出来るように、コミュニケーションをとり信頼関係の構築に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をよく聞かせて頂き、ご本人やご家族の気持ちに共感した上で困っている事や要望を明確にし、不安を解消できるようなサービスを提供することで、安心していただけるよい関係づくりに努めている。また、ご本人とご家族の要望が異なる時も多々あるので、個々に時には一緒に耳を傾けている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員、施設のＣＭとも連携をとり、相談受け付けの際ご本人に必要な支援、ご家族が求めている支援を考慮に入れ他のサービスも含めた対応に努めている。また、そのニーズがグループホームに合っているかを見極め、その方の状況に合っている支援を検討している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの能力を見極めその方に応じた作業を一緒に行なう。食事作りを手伝っていただく方、味見をして頂く方など、生活歴や様子、言動、好みなどから、本人の役割を模索しケアに取り入れている。支え合える関係づくりと人生の先輩であることを考慮し共に生活をしている関係作りを築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけでご本人を支えるのではなく、家族にも出来るだけ協力して頂き、共にご本人を支える関係の構築に努めている。面会時は必ず近況報告を行い、昔のご本人の情報を聞き、ご家族の思いも反映できるように努めている。ご本人、ご家族と共に対話を行い、家族の関係が職員を含めて密になるように努める。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の了承の上、ご本人が馴染みの方と会える機会を設ける為、家族に来設を呼びかけたり、ドライブや買い物にて馴染みの場所を訪れる機会を設けている。また、誰でも、会いに来られるような、開放的な環境作りを行っている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や、相性を理解しながら席を配慮したり、利用者同士も支え合える関係が持てるように支援している。また、交流や関係作りが築けるように職員が状況により援助している。トイレの場所を教えあい、就寝時の照明の調整など入居者同士で助け合っている時は見守りにて対応している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現時点ではいらっしゃらないが、退去者にもこれまでの関係性を大切にし、相談・支援を受けやすい環境が保てるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃のコミュニケーションにて、ご本人から意向や情報を収集確認し、日々の変化を観察しながらニーズの把握に努めている。意思疎通が困難な方にも、ご家族からの情報や生活暦、日頃の行動や表情にて予測し取り組んでいる。出来る限りご本人本位の暮らしが出来るように検討している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時には、可能な限りご本人から聞き取りを行い、ご家族からの情報収集を行なっている。開始後に知り得た情報も職員間で共有し活用している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心地よく生活していただく為、それぞれ一人一人のリズムを職員全員で理解し、言動や表情からもその方の現状把握に努めている。十分な情報収集のうえで計画に反映させ、日々の暮らしの中から、その方の有する力を遠慮なく発揮出来るように支援している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的にコミュニケーションをとる事でご本人やご家族から聴き取り得た意向や情報と専門職からの意見やアイディアを反映させ介護計画の作成を行なっている。モニタリングも月一回行い、三ヶ月に一度評価会議を行っている。また、変化があった時その情報を元に話し合い、その方がより良い暮らしが出来る介護計画の作成を行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・業務日誌には日々の様子だけでなく職員の気付きや感じた変化なども記録しており、日常的にケアの工夫などを話し合っている。情報を全員で共有し、必要があればご家族にも相談している。モニタリングや評価で検討した項目も新しい計画に盛り込んでいる。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門医への通院、入院の支援、買い物などその時々で生じるニーズにチームケアで対応している。本人の希望に応じ、併設されている施設との協同イベントやクラブ活動などに自由に参加して頂き交流を深めている。また、その時々に生じるニーズに合わせ、職員を増員できるよう柔軟な対応を行なっている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物や近隣の小学生の訪問、地域ボランティアで来所してもらっている。オカリナの演奏、踊りのほか、介護のボランティアの受け入れを随時行い、地域との交流を深め、安全で豊かな暮らしができるよう支援している。また、散歩にて近所の公園内を散策挨拶を交わす事で近隣の方との接点を持って頂いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を重視し、家族の協力を得ながら適切な医療が受けられるように支援している。入居以前からのかかりつけ医がいる方はそれを継続して頂く。本人が体調不良の際には家族へ連絡し、本人の要望をもとに、家族の意向・医師の指示を確認し対応している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職による観察等で健康管理を行い、日々の心身の状態や情報、気付きを、ご家族の医療に対する疑問を伝え看護士に相談し指示を受けながら、利用者が適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が安心して治療が受けられるよう、日頃から主治医と連絡を取り、相談し助言を頂いている。入院時には介護添書にて日々の様子を医師に伝え、電話やお見舞い時相談を行い早期退院に努め、退院時には入院中の様子を確認し安心して生活に戻れるよう支援している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時及び必要時に重度化についての指針の説明を行い、段階ごとにご家族に相談を行っている。ご本人・ご家族・主治医・ホームが常に連絡を取り合いながら、状況の変化に伴い、その都度意向を確認し支援に取組んでいる。また、看取りの例はまだないが、2ヶ月に一度勉強会に出来るだけ参加し、一つの選択肢として職員間で取り組む心構えを行っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救命講習を受講している。急変時対応マニュアルを作成し常に眼を通し内容を理解するよう勤めている。定期的に社内研修を設け、一人一人が慌てずに対応できるよう実践力を身につけられるように努めている。個々の利用者の急変時の対応の意向について主治医・家族・ホームで合意書を交わし、慌てる事のないようにしている。		

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年２回は併設施設と合同で避難訓練を行い利用者の安全な避難方法を確認している。日中夜間それぞれ想定した訓練と避難方法の確認を行っている。緊急避難マニュアルを作成し、その時、どうしたらいいのか把握できるようにしている。避難場所の確認や地域のボランティア、近隣へも協力が得られるよう呼びかけ話し合いを行っている。		
【Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねるような対応にならないよう努めると共に、人生の先輩として尊重し誇りを傷つけないように言葉遣いや口調、姿勢に配慮し、その方に応じた声掛けや対応を行なっている。職員間で情報を共有しその方に応じた対応に努めている。		
39	―	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で傾聴する姿勢をもち、その方の思いや希望を聞いたり自己決定が出来るように努力している。その為、会話機会を増やし、言葉に出せない方もその方の表現される仕草や目配せから把握し、自己決定できる援助を行っている。		
40	―	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ニーズの把握に努め個別に配慮しながら、日々変化に合わせて支援を行っている。出来るだけ自分のペースで一日を過ごして頂くよう援助している。その為、職員は柔軟な対応が出来るように心がけている。その時の体調や精神状態に合わせ職員で協力し合い支援している。		
41	―	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により、使い続けている化粧品や櫛を居室に置き、いつでも使えるようにしている。衣類は可能な方は自身で選んで頂いている。定期的に訪問美容師に来てもらい、身だしなみが出来るよう支援している。また、ご家族がネイルサロン連れて行かれるなど、ご本人の好みに合わせた支援を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個別の好みやこれまでの食習慣を聞きながらメニュー作りをしたり、その人の力に応じ、出来る方には職員と一緒に準備(盛り付け、味見)や片づけを行って頂いている。また、職員が一緒に食事し、話題の提供など、楽しく食事が出来るように、配慮している。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立表を参考にバランスを考えながら献立を作り提供している。一人ひとりの食事量を把握できるようにしている。その人の状態や能力、既往歴に合わせて食事の形態やメニューを変更している。変更した情報は共有し状況の確認が出来るようにしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、一人ひとりに声掛け、力に応じた口腔ケアの支援を行う。口腔内の清潔を保つと共に誤嚥性肺炎の予防に努めている。出来るだけ自分で磨いて頂き、磨き残しを必要に応じて介助している。義歯は就寝前に預かり、夜間浸け置き消毒している。意思疎通困難な方は歯科医師にも協力していただいている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えにはすぐに対応し、その方の心身状況にあわせた援助や誘導を行うよう努めている。出来ない事のみの援助を心掛けている。また、できるだけ排泄はトイレで行なえるよう支援し、排泄パターンに応じ声掛け誘導を行なっている。また、必要以上のオムツ、パッドの使用を控え、その方の自尊心を考慮し自立に向け支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に関しては、ご家族・看護師と連携しながら状況を確認し排便コントロールを行っている。便秘による不穏など心身への影響を考慮しつつ対応する。水分摂取量や食事に内容を配慮する（繊維質の多いもの、乳製品）他、腹部マッサージやフラダンス体操などにも参加して頂き、腸の運動に働きかけ、自力排便を促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	入浴予定は決めているが、可能な限り対応している。温度も個人の希望を反映させ、急ぐ事無く、ご本人が満足できる事を第一に心がけている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の変化や状況に合わせて居室や共有スペースのソファで自由に休息を取って頂く。夜間は入居者の生活リズムも考慮し、就寝前の準備を支援、居室の室温や寝具の状態や入眠状況の確認を行い、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情は個別にファイルを行い、職員全員が自由に閲覧し、薬に関する情報の理解するように努めている。内服はその方に応じて、袋ま渡す、または掌に載せる、口内に含ませるなど対応を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やご家族からの情報、日常での個別のアセスメントにおいて、趣味や得意な事を見つけ、発揮できる機会を作り、その方が活気を持てるように援助を行う。職員間で話し合いながら生活の中に役割や生きがいを感じられる支援に努めている。また、嗜好品の提供も行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良く大気汚染数値が安全レベルを示す日には、事業所の庭先や近隣へ散歩に出かけたり、買物に同行して頂いている。悪天候の日は隣接の施設に行き、そこの入居者との交流を楽しまれている。また、個別の要望に応じコンサートやドライブ等を計画し実施している。また、ご本人ご家族の要望により自宅への外出支援の働きかけを行う。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と本人の意向で少額のお金をもって来ている方がいる。施設内で日常使うことはないが、祭事や、外出の際にご家族と共にご自身でお金を払っていただく。お金を持つことで安心される方もいる。その気持ちを汲み取り可能な限り、自己管理もして頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、個人で携帯電話を持たれている方は、好きな時に掛けている。施設の電話番号は、施設内に掲示している他、郵送物・お便り等にも都度掲載しており、必要時には電話を頂けている。実際、郵便物も届きご本人に渡し、電話の取次ぎも行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンでの遮光、オーディオの活用、ドライブや外出等の工夫によりできるだけ利用者の不快感の減少に心がけ、季節感や生活感を感じて頂けるように工夫している。中庭に畑があり、一緒に農作業を行い、収穫の喜びを共感して頂いている。また、季節ごとのカレンダーを手作りしたり、日々の行事の写真なども貼り、馴染みの空間になるよう心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号		項　　目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	―	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファは自由に使用できるようにし、独りやなじみの方と過ごせるように配慮している。テレビやゲームなどの手作り娯楽グッズ等を置き、自由に使用し過ごして頂く。テーブル席は身体的な面だけでなく、人間関係を考慮し、より居心地よい場所になるように日々工夫している。その方の意思と心情を尊重し、自由に過ごして頂きつつ、トラブルの回避にも努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や馴染みの物を置いて頂き、これまでの生活スタイルが継続でき、居心地よく過ごせるように工夫している。また、ご家族の写真や、好みの装飾を行い、居室内で過ごす時間が穏やかで楽しく感じていただけるよう努めている。		
57	―	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは手書きで見やすく表記し、居室には名前を貼る、浴室には「ゆ」の暖簾を下げる等、混乱しないよう工夫している。補助具の方もおられるので、できる事の把握と安全に過ごせるよう支援している。日々の変化に伴いながら援助内容をその都度工夫している。また、必要に応じて居室内のベッドや家具の位置をその方が生活しやすいよう環境整備を行っている。		

自己評価および外部評価結果

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
Ⅴ　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	―	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25,26,27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の２／３くらいの
				③利用者の１／３くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	―	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20,40）	○	①毎日ある
				②数日に１回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	―	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
61	―	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38,39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
62	―	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
63	―	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32,33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
64	―	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんど掴んでいない

自己評価および外部評価結果

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
Ⅴ　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	―	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の２／３くらいと
				③家族の１／３くらいと
				④ほとんどできていない
66	―	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2,22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に１回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	―	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	―	職員は、活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の２／３くらいが
				③職員の１／３くらいが
				④ほとんどいない
69	―	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
70	―	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の２／３くらいが
				③家族等の１／３くらいが
				④ほとんどいない